

ICTで校務をDX!

学年 教職員 教科など 校務

非効率的業務からの脱却！ICTの効率的な活用方法！

使用するアプリケーション等
Microsoft
teams.Forms等

DXする題材 職員会議・研修・PTA活動等における各種データの効率的なまとめ方

DXのねらい ICT機器を効率的に活用し、非効率的な業務からの脱却を図ることで、【①他業務に取り組む時間を生み出す ②学校の働き方改革を行う】ため。

ICTを活用することでできること

- ・紙媒体のアンケート等のデータ収集をICTで行うことで、時間の短縮につながる。
- ・ICTの活用方法がわかれば、多くの業務や授業にも活用できることを教職員が知ることができる。（慣れれば難しくない!）

DX前（ICTを使っていなかった頃は・・・）

1 該当業務

- ①学校の内外で行う必要のあるアンケート集計
- ②行事・研修等での意見や実施後の改善点等の集約方法

2 実態

- ①担当の教員を中心に、1枚1枚の用紙を確認し、PCに手入力を行う。
- ②アンケート・ワークシート等に記入し、意見をまとめていく。

3 デメリット

- ①多くのデータを手入力するため、ミスが生じやすい。
- ②全員のデータを一度に見ることが出来ず、意見交換に時間を要する。

DX前の校務デメリット図

・人的負担
・時間的負担
・大量の紙を消費

・エクセルへの入力
→ 手入力
→ 入力ミスの発生

・入力後の管理
→ 保管場所の工夫
→ 処分に係る時間の増加

業務の改善を望む声が叫ばれていた!!!

DX!

DX後

1 校務におけるICTの活用に向けた取組

- 年度当初に呼びかけ → なるべく紙を使わないでICTを活用する。
- 各学年の情報担当（GIGA担当）同士で活用できる機会を確認する。
- 積極的な活用を促すため、活用状況を月に一度確認する。→担当者ミーティング
- ICTに苦手意識のある教員に対しては、情報担当やICTが得意な教員がサポートする。
- ICT支援員に授業を参観していただき、ICTの使用上の助言を求める。

2 アンケート集計作業の劇的な改善

- Microsoft Teams/Formsを基本的なアンケート集計ツールとして活用を進めた。
- 校内研修等を中心にFormsの活用方法の研修を行った。
→ 7割近くの教職員がFormsの使用方法について理解している。
- 校務分掌ごとのTeamsを作成し、共同編集を行い、効率的な作業が実施できた。

アンケート等に活用した事例

- 領域・教科部会
- 学校評価アンケート
- 各講演会等アンケート
- 新入生保護者会
- PTA活動に関するアンケート
- その他（行事等での活用）

3 ICTの効率的な活用を図った結果

- データをExcel等に手入力する作業が省略されたため、時間的余裕が生まれた。
→ その他の校務への時間が生み出され、質的改善が図れた。
- データの保管、管理がクラウド上のため、安全面でのリスクが軽減した。
- 誰もが常時、データの共有が出来るため、各取り組みの進捗状況が確認できる。
→ 最新のデータは、クラウド上にあることを全教職員が認識している。

4 ICT推進上の課題

- 全校生徒（約600人）が同時にインターネット接続を行うと不具合が発生する。
→ 一斉に行う必要がある場合、端末がフリーズするため、学年別に行っている。
- 教職員のICT活用スキルの向上
→ 例えばショートカットキー等を扱えるようになると、更に処理速度アップや時間短縮につながる事が予想される。

5 今後行っていきたいICT推進

- 生徒の出欠確認のICT化
→ すでに実施をしている学校の方法を参考に校内で検討予定。
- 学習系と校務系でインターネット回線が分かれているため、データの移行に手間がかかるため、より円滑な移行方法や手立てを計画していく必要がある。

担当者から（成果・課題）

- 【成果】・端末導入2年目を迎えた中で、前年度よりも活用状況が生徒も教職員も活発になった。
・ICTの活用により教職員の負担軽減につながった業務が明確化された。
- 【課題】・年度が移ると教職員が変わり、様々なOSで取り組まれてきた教職員が混在するので、継続的に校内研修等で推進を行う必要がある。
・校務の内容を精査し、更にICTの活用が可能な校務を増やすことで、業務改善や学校の働き方改革につなげていきたい。